

# デジタルオシロスコープ

WaveRunner

# LT364

WaveRunner, LT364, LT344等はレクロイ社の商標です。

品番	GP-IBボード	価格	動作環境
W32-LT364-R	ラトックシステム社	60,000円 (消費税は含まれておりません。)	Win98SE/Me Win2000/XP Excel2000 Excel2002/2003
W32-LT364-C	コンテック社		
W32-LT364-N	NI社		
使用できる機種		LT364/364L, LT344/344L, LT342/342L, LT322, LT224	



## 機能

波形データを電圧値として、Excelシートに取り込みます。  
最大8波形までの波形を同時に取込むことができます。

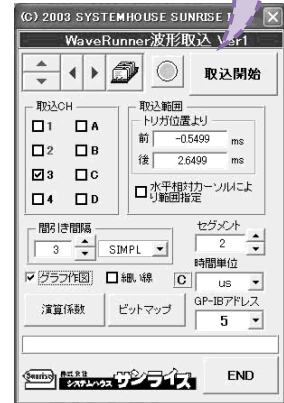
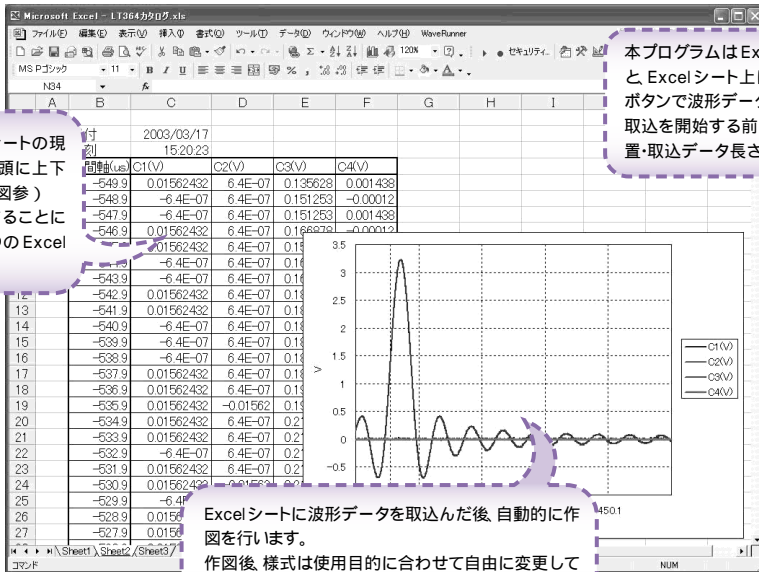
取込める最大データ数は、32Kデータまでですが、間引き機能により波形全体を取り込むことが可能です。例えば、400Kデータを、20個飛びで20Kデータとして取り込みます。間引き方法は、MAX、MIN、AVERAGE等から選択できます。

波形を受信すると、自動的に作図を行います。

測定器の画面をビットマップとして取り込むことができます。

## 概要

波形データは、Excelシートの現在のカーソル位置を先頭に上下方向に取込みます。(右図参照)  
カーソル位置を移動することにより、複数の波形を1つのExcelシートに取込みます。



## 操作説明

Excelの表示シートを切り換えます。

Excelシート上のカーソルを上下/左右に移動し波形取込開始位置を決定します。「スタート」ボタンをクリックするとカーソル位置から下方向へ波形データを取込みます。

波形を取り込むチャンネルにチェック付けます。係数演算がONになっている場合は、赤色で表示されています。

ここをダブルクリックで「Non」になります。

取り込んだデータを、間引きしてExcelに入力します。間引きすることにより、広範囲のデータをExcelに取り込めるようになります。例えば、320Kデータを間引き間隔10にすると32Kのデータとして取り込みます。「Non」は、間引き無しです。「Auto」は、指定した取込データ範囲が32Kデータ以内に収まるように、自動的に間引き間隔を設定します。間引き間隔の最大は1000です。

データをExcelシートに取込後、自動的に作図を行います。また、波形の線の太さを指示します。

波形データを係数演算しExcelシートに入力する場合は係数を入力します。(裏面参照)

測定器から波形の取込を開始します。

波形データを取込む開始位置をトリガポイントからの時間(ms)で入力します。トリガポイントからはマイナスの値、後はプラスの値で入力します。入力が無い場合や不適当な値が入力された場合、自動的にパソコンが適切な値に変更します。

波形データを取込む最終位置をトリガポイントからの時間(ms)で入力します。トリガポイントからはマイナスの値、後はプラスの値で入力します。入力が無い場合や不適当な値が入力された場合、自動的にパソコンが適切な値に変更します。但し、取込データ数が32,000個を超える場合は、開始位置から32,000個までとなります。1度に取込めるデータ数は、32,000個までです。データ取込後、ここには実際に取込んだ時間幅が自動的に入力されます。「水平相対カーソル範囲」がチェックされている場合、ここに入力された時間は、無視されます。

測定器の「水平相対カーソル」をONにして、2点のカーソルで指定した範囲のデータを取り込むとき、チェックを付けます。

シーケンスモードをONにして取り込んだ波形は、ここでセグメント番号を指定します。シーケンスOFFの場合はこの設定は無視されます。

Excelシートに入力する時間軸の単位を設定します。

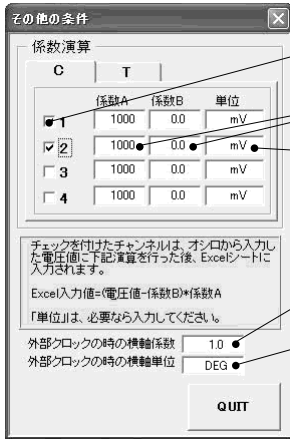
間引き方法を指定します。「SIMPL」は、単純に間引き間隔毎のデータをExcelに取り込みます。「MAX」は、間引きデータ中の最大値をExcelに取り込みます。「MIN」は、間引きデータ中の最小値をExcelに取り込みます。「AVE」は、間引きデータ中の平均値をExcelに取り込みます。

測定器のGP-IBアドレスを設定します。

測定器画面をビットマップとしてファイルに取込みます。(次ページ参照)

注) 1度に取込めるデータ数は、チャンネル当たり32Kデータまでです。それ以上のデータ数を取込むためには「取込開始位置」を変更して、再度取込みます。但し、Excelの性質上、あまり多くのデータを取込みますと、データの表示動作が極端に遅くなりますから実用的ではありません。取込む波形のデータ数は、10Kデータ以内に収めることをお薦めします。波形の取込速度は、Pentium1.7GHzのパソコンを使用した場合、下記がおおよその目安となります。  
・波形データ数 32Kデータの時、約9秒(GP-IB受信時間=2秒、Excelシートへの転送時間=7秒)

## 演算係数



係数演算を行うチャンネルにチェックを付けます。  
チェックが無い場合、測定電圧値がExcelに入力されます。

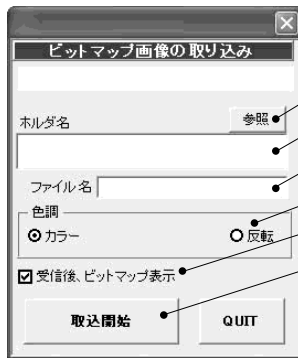
係数 A/B により、受信したデータを下記の演算を行った後、Excel に取込みます。  
Excel への入力値 = (受信データ - B) \* A

「単位」は、必要なら入力してください。

外部クロックでサンプリングしたデータを取り込む時、1クロックの係数を入力します。  
例えば、1度当たり100バースのロータリーエンコーダのバースでサンプリングした場合、「0.01」と入力しますと横軸が読みやすくなります。

横軸を内部クロックの時間の代わりに使用する単位を入力します。

## 画面ビットマップの取込



「参照」により、ビットマップ画像ファイルの保存フォルダとファイル名を指定します。

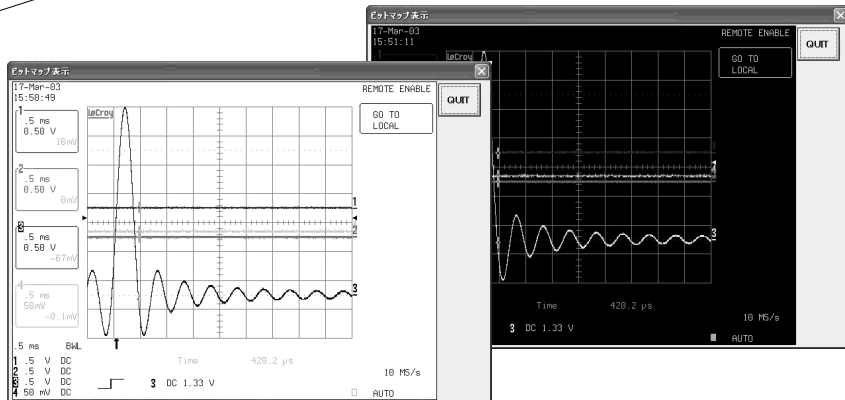
ビットマップファイルを保存するフォルダを入力します。空欄の時は、Excelのデフォルトフォルダとなります。

ビットマップファイルを保存するファイル名を入力します。空欄の時は、年月日時刻がファイル名となります。  
例えば、1999年1月23日14時35分28秒の場合、19990123\_143528.BMPとなります。

ビットマップの色調を選択します。

チェックを付けると、画面ビットマップを受信後、一旦、画面に表示します。(下図)

測定器の画面をビットマップデータとして受信開始します。



## GP-IB インタフェイスの設定

